

河川ごみアンケート 集計結果

I. 調査の目的

川ごみの課題とその対策について、現状を把握し、課題解決に向けた対策活動を推進する。

II. 調査の概要

- 調査主体 : 全国川ごみネットワーク
- 調査対象 : 川で活動している団体（清掃活動には限らない）
- 調査期間 : 2017年8月～2018年3月10日
- 調査方法 : アンケート記入方式（アンケート用紙は、「IV. 資料」に掲載）
 - ・イベント(いい川づくりワークショップ、川づくり団体全国事例発表会等)でのアンケート依頼
 - ・河川協力団体の地域会合（関東、近畿、北海道）、全国会合でのアンケート配布
 - ・メールマガジン、ホームページ等での依頼、その他

※本アンケートは、公益財団法人河川財団による河川基金の助成を受けて実施しました。

III. 調査結果

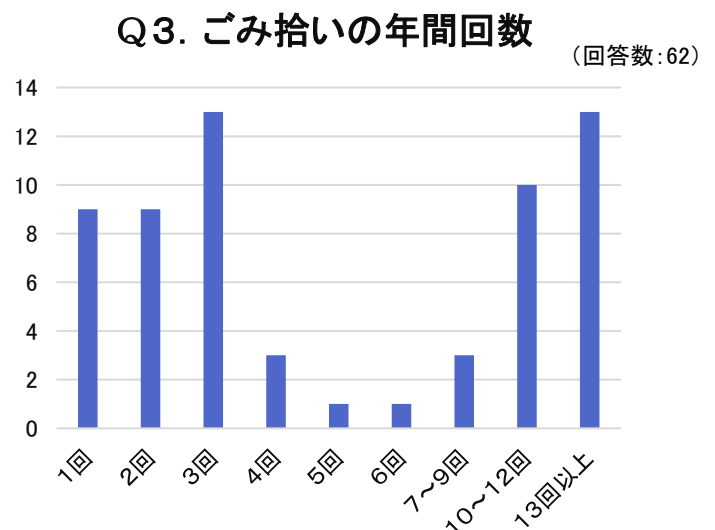
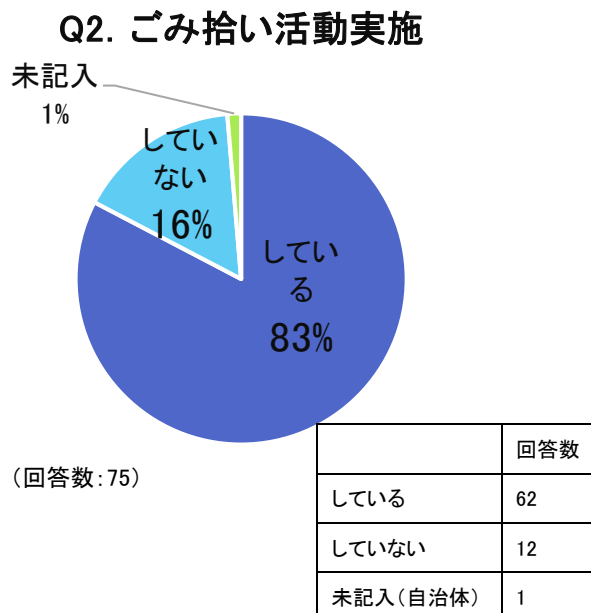
- 回答数 : 75
(内、自治体2、市民団体73)

1. ごみ拾い活動の状況

河川ごみ及びごみ拾い活動への関心が高い方が多く回答を提出された（関心の低い方は提出されなかった）と想定されている。

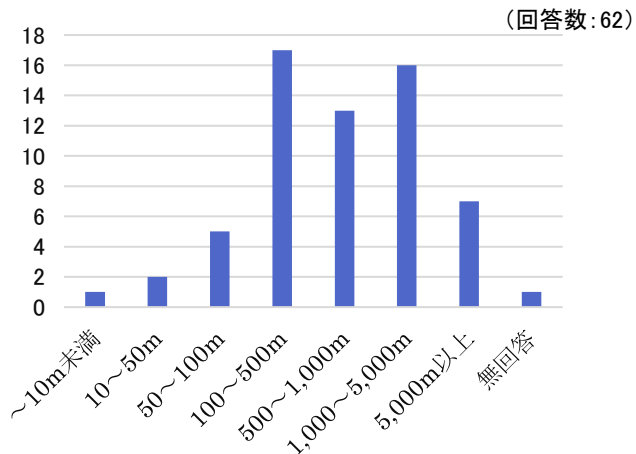
回答された中で、全体の8割以上がごみ拾いを実施している。

清掃活動を実施している62団体の中では、年間の清掃実施回数は1～3回または10回以上（おおよそ毎月実施）でその大半を占める。



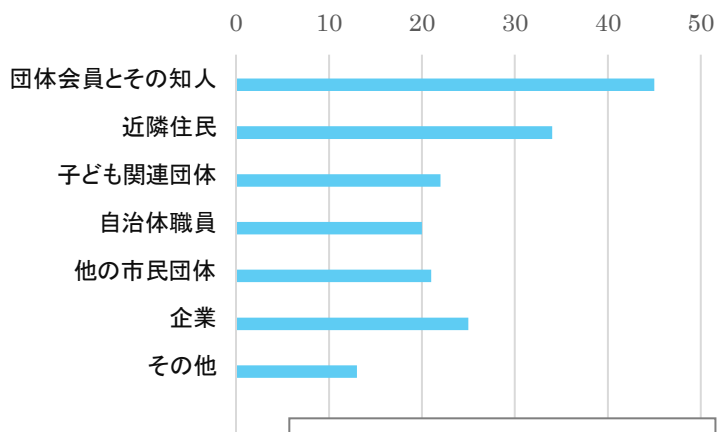
清掃活動の範囲は、参加人数や規模にもよるが、100～500m、1,000～5,000m で実施されているところが多い。参加者は、団体会員だけでなく、近隣住民や企業、自治体などと共に取り組んでいるところが多い。

Q4. 1回当たりの活動範囲



Q5. 参加者

(回答数: 62)

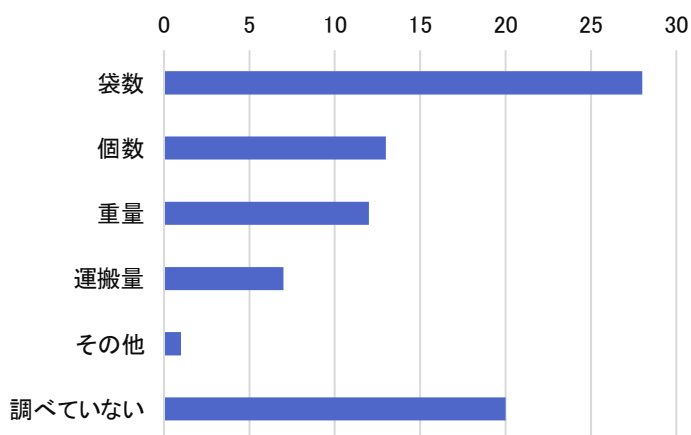


- Q5. その他
- ・大学生などの学生ボランティア
 - ・カヌースクール参加者
 - ・近隣の高校
 - ・一緒に活動している商店会。釣り人たち
 - ・環境市民会議
 - ・川崎フロンターレ選手&サポーター
 - ・老人クラブ
 - ・JC

回収したごみの量については、約 1/3 は調べていないが、約 2/3 については、なんらかのかたちで調べて把握している。ゴミ袋の袋数を調べている団体が最も多く、450ゴミ袋の袋数を記録しているところが多い。運搬量としては、軽トラの台数で量られているところが多いが、なかには4tトラックで搬出との回答もあった。

Q6. ごみ調査項目

(回答数: 62)



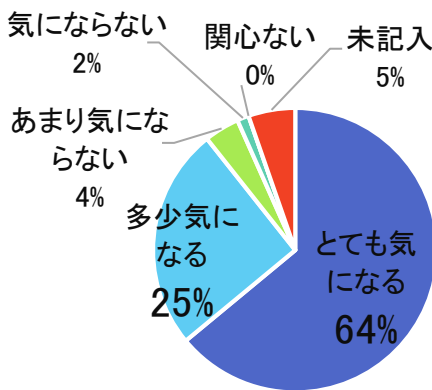
2. ごみの課題

「河川でゴミが気になりますか？」の質問では、9割の人が、「とても気になる」または「多少気になる」に回答している。

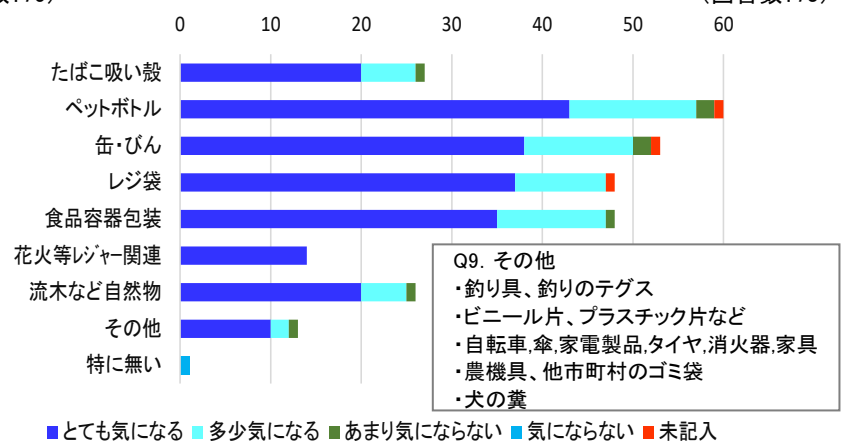
多いゴミとしては、1. ペットボトル、2. 缶・びん、3. レジ袋、3. 食品容器包装の順に多く回答された。気になるゴミとしては、生活ゴミ、ドリンク類などの生活系のものと、バーベキュー関連、タイヤや家電製品などの粗大ゴミが多く挙げられた。中には、サイフや運転免許証などの回答もあった。駐車場のごみ、バーベキュー後の放置ゴミ、生ゴミなど故意に放置されたゴミおよび、増水時に木にひっかかったまま取れないポリ袋などが問題となっている。また缶・びんは子どもが遊ぶと危ないとの回答もあった。

気になる場所としては、橋の上から投げ捨てられたと思うもの、橋の下に放置されたものなど橋周辺や、車の入りやすい場所、ヤブの中など陰になるところに放置されているのが問題視されている。また水中や立ち入り禁止区域、葦の中に留まるプラスチック類など回収困難なゴミも課題となっている。

Q8.ゴミが気になる？



多いゴミと、ゴミが気になる具合



Q9.特に気になるゴミ。なぜ？ どのような場所？ (自由記述)

■気になるゴミ

- ・家庭内の生活ゴミ / ・サイフ・運転免許 (警察に届け出が必要となる)
- ・生活プラスチック。とくに軽いもの / ・発泡スチロール類。いずれ海に流出。魚類から人の口へ。

■どのような場所

- ・橋の下周辺の河川敷に多い。多くの人が集まる場所 / ・橋の上から投げ捨てる者 (マナーが問われる)
- ・電化製品、タイヤなどが陰になるところや、やぶの中に見られます。車の入りやすい場所に多く見られる。

■故意に放置されている

- ・生ゴミ (故意に川に投げ捨てられている) / ・親水公園駐車場のゴミ。BBQの後始末をせず放置されている
- ・風に吹かれてたまるものもあるが、釣り人や個人が故意に捨てているゴミが気になる
- ・2mの塩ビ管等・・・上流部の工事か? / 自転車・・・盗難自転車を川に投げ入れるのか?
- ・持ち出されたゴミ袋から、お金になるものだけを抜き取り、残りを人目の少ない源流部に捨てている。

■枝に引っかかるゴミ、増水時のゴミ

- ・レジ袋、ポリ袋等。水際の木のかかっていると、そこに枯れ草などが集まってしまう。
- ・洪水時期に流れてくる流木や沢山の種類のゴミ。 / 台風などの時に大量に出る。海からのゴミ (流木を含めて)

■危険

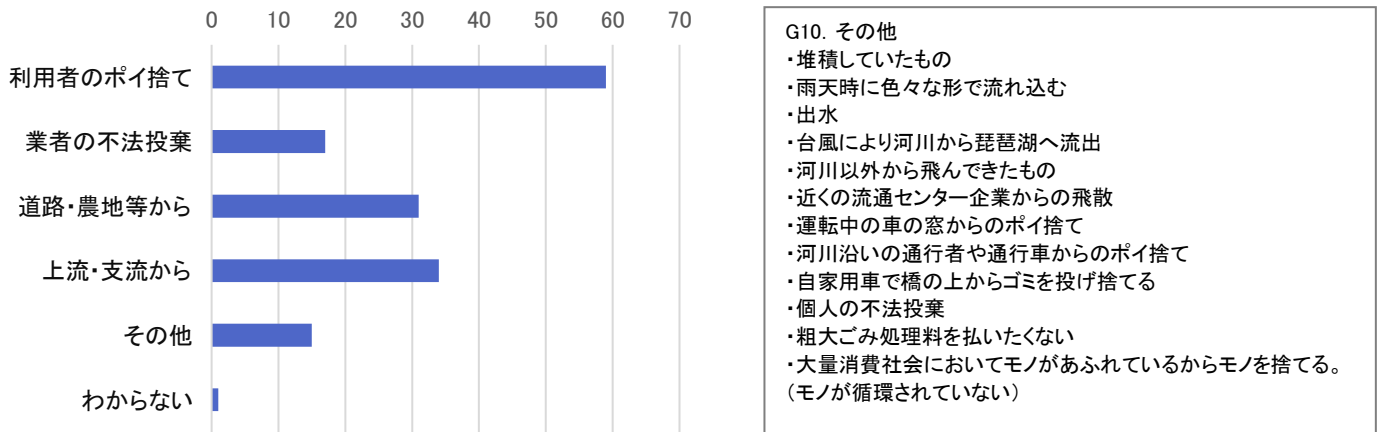
- ・缶・びん-子どもが遊ぶと危ないから

■回収困難

- ・水の中のレジ袋、包装容器。回収困難
- ・河口域で、漂流ゴミが葦の中に留まってしまう。ペットボトルやプラスチック類が多い

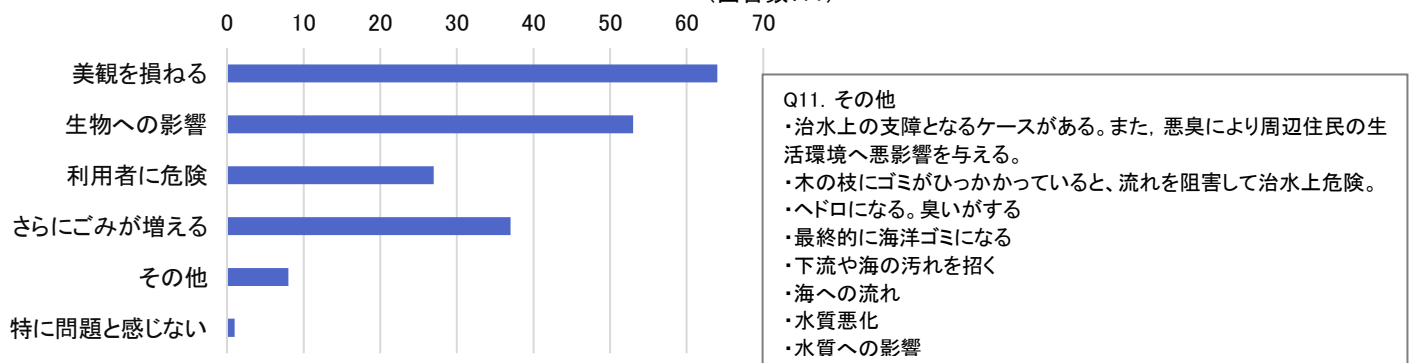
ごみの原因としては、多くは、利用者のポイ捨て、業者の不法投棄や個人の不法投棄が考えられている。また、道路や農地などからの他にも通行車からのポイ捨てなどの回答もみられた。上流・支流からと考えられているものも多く、出水や雨天時・台風などで流れこんでいるものも原因として考えられている。

Q10. ごみの原因で考えられるもの (回答数: 73)



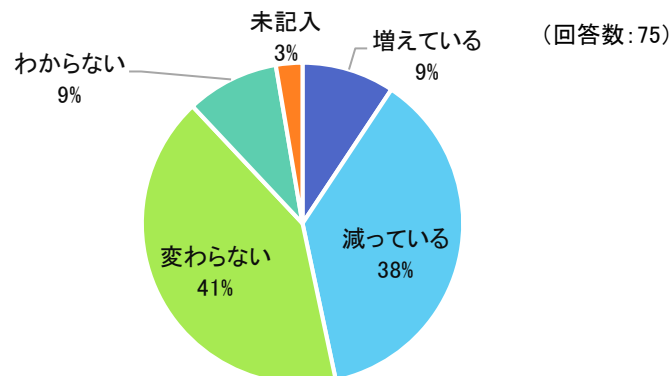
ごみの影響としては、美観を損ねることや、生きものへの影響が問題となっている。他にも、悪臭、水質悪化や、下流や海の汚れを招くことが問題であるとの回答もあった。

Q11. ごみの影響 (回答数: 71)



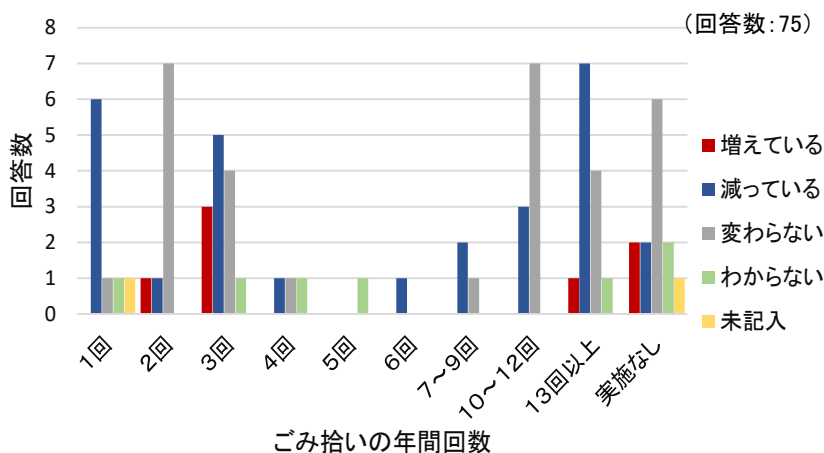
5~10年前と比較して、ごみの状況について質問したところ、「変わらない」または「わからない」の回答で合わせて約半数であった。また、全体の約 1/3 以上では「減っている」の回答があり、ごみ拾いの成果を感じられていることが伺える。

Q12. ごみ状況の変化(5~10年前との比較)



	回答数
増えている	7
減っている	28
変わらない	31
わからない	7
未記入	2

年間ごみ拾い実施回数とごみ状況の変化



5~10年前と比較したごみ状況の変化と清掃回数の関連を調べたところ、「ごみが増えている」と感じている方は、清掃活動を年に2回、3回、13回以上実施または、実施していないと回答している。

年1回実施のところでは、「減っている」の回答多く、ごみが片付き放置されることが減り改善されたものと思われる。また、13回以上実施しているところでも「減っている」の回答が最も多く成果が感じられる。年2

回、10~12回清掃活動を実施しているところでは「変わらない」の回答が最も多い。活動場所の状況にもよるが、定期的に拾っても改善しづらい課題であることがわかる。

Q11.河川ごみの問題（自由記述）

■美観、環境等

- ・木の枝にかかったゴミが美観を損ねると同時に、治水上も問題となる。そのために木を切れという要望が出てくる。
- ・河川周辺の湿地のゴミが、タンチョウの営巣を不安定にしている
- ・ポイ捨てや雨天時に流れ込んだゴミが河川敷に散乱して景観・環境問題の原因

■分解しない、破片化

- ・プラスチック等の有機物は、消滅期が長い、増加するのみ / プラスチック類はボロボロになって拾えなくなる
- ・マイクロプラスチックを捕食する生きものへの影響

■回収しても溜まる、洪水時のごみ

- ・水際の護岸や干潟ヨシ原などに漂着、堆積しているゴミは、きりがなく流れつく。河川敷などのポイ捨てや不法投棄と見られる粗大ごみなども大きな問題だが、それらの故意によるものに比べて、漂着ゴミの問題は、その量の多さに対して発生源や影響の大きさが意識化されにくいゴミだということが問題だと思う。
- ・洪水時期に流れてくる流木や沢山の種類のゴミが、洪水のたびに流れてくる。
- ・普段は水の流量が少ないのでごみが堆積しやすい。大雨になると上流から流れ着く
- ・台風が来ると河川ゴミは流されてしまいます。海へ

■意識の低下、啓発の必要性

- ・国が河川の管理をしなければならぬが、無関心で放置されている、そのた美観をそこねていることから、私たち少人数で自主的に月2回定期的にゴミの回収活動を行っています。1番問題なのは、国も行政も関心がないという事ではないかと思います。
- ・クリーンアップ実施の立て看板を掲示するとゴミが増えるので現在は掲示していない。川に水が無いので川で遊ぶ人がほとんど居ない。従って人の目が気にならないので不法投棄が絶えない。
- ・河川のごみ問題については、全てを取り締まることは事実上困難であることから、事業者や個人の意識向上を図る必要がある。（自治体）

■自分たちで頑張るしかない、継続態勢

- ・長年とってきている（問題ないようにしている）
- ・ごみがあるとさらに捨てられてしまうので、常に取っていないとならない。綺麗であれば捨てられないので早めに取ることが重要で、大変。

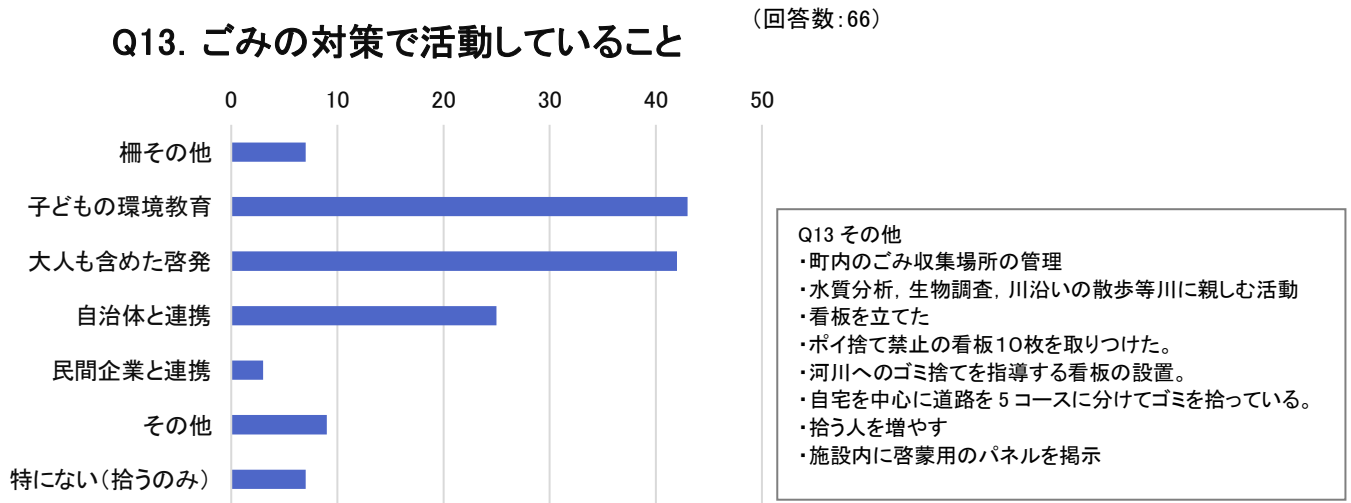
■費用

- ・一班廃棄物として処理費が高額である（自治体）

以上のように、河川ごみは美観を損なうことと、環境への悪影響が課題とされている。加えて、新たな課題としてプラスチック類が分解しないことや、マイクロプラスチックとなり生きものに影響を及ぼすことなどがごみ自体の課題と考えられる。また、回収してもきりがなく溜まってしまうこと、発生源や影響の大きさが意識されづらく解決が困難であることや、皆の関心がないこと等がごみ問題全体の課題として考えられている。また、処理費の課題も挙げられている。

3. ごみの対策

ごみを拾うこと以外で川のごみが減るように活動されていることを尋ねたところ、拾うことのみでの回答は7で、その他（59）はなんらかの活動をしている。活動している中では、子どもの環境教育、大人も含めた啓発ともに7割以上が取り組んでいる。



対策のための具体的な活動としては、小学校への出前授業で話をしていること、行政イベントなどでのパネル展示や講演などの回答が多くあった。また体験活動と併せての活動や啓発を行っているところもある。他にも柵の設置や調査・研究などの取組みもある。また環境テーマの川柳募集などユニークな回答もあった。

Q13.対策のための具体的な活動内容（自由記述）

■環境教育、説明

- ・小学校での環境教育（出前授業）や教員への研修を実施。また川の生態系や水運文化の伝承活動を通じて川に親しむ機会を増やし、関心層を増やす。
- ・事前に川から海へと流れるごみの現状をお伝えして、ごみ拾いをしている
- ・小中学生を対象に毎年自然観察会（授業）を行っている中で、河川のゴミについて一緒に考えている。
- ・自治体での講演。他団体への活動パネル展示など / ・行政イベント参加者へのゴミ問題のパネル展示と説明

■体験活動

- ・近隣小学校の児童を招いて、授業の位置づけで、ゴミ拾いと自然観察会を実施
- ・自然観察会やRACの川流れを利用して親子でゴミ拾いをしている / ・野外活動時に啓発。

■清掃活動・啓発

- ・法律、条例、規則で対策をとるやり方よりも、マナーを心得た市民が育つような啓発活動としての道路のゴミ拾い。自ら清掃する姿を市民に知って貰うこと。「すてる人よりひろう人」の標語を掲げた清掃活動。
- ・ごみ拾い。ごみによる影響を具体的に教える
- ・河川愛護モニターを呼びかけている。市広報、新聞でPRし、市民一人ひとりへの意識づけをしている

■調査・研究、水質

- ・調査研究含め様々
- ・子ども向けのカヌーや川遊び、一般市民向けに行政や市民団体と連携した水質改善プロジェクト（水質調査、清掃活動、中学生への環境保全啓発活動等）を実施している。

■ハード的対策

- ・上流に柵を設置。
- ・土砂崩れ、洪水、氾濫などの水害が主な原因なので、水害対策も大事ではないでしょうか
- ・河川への不法投棄に対して撤去を要請する看板を設置している。（自治体）

■その他

- ・環境テーマの川柳募集など
- ・ゴミを捨てないように草などを刈った
- ・河川巡視点検によりパトロールし、河川治水上支障となる箇所について立木を伐採している（自治体）

IV. 資料 (アンケート用紙)

==== 河川ごみについてのアンケートのお願い ====

(水辺のごみ)

多くの河川でごみが問題となっています。なかなか減らない河川のごみは、もはや拾うだけでなく、多くの主体と連携しながら根本解決に向けた対策を推進しなくてはならない段階と考えます。そこで、皆さまが日頃活動している河川のごみ問題の状況や課題を把握し、全国的にとりまとめ、問題解決に向けた対策などについて発信してまいります。

本趣旨をご理解の上、アンケートへのご回答、ご返送にご協力いただきますようお願いいたします。

全国川ごみネットワーク 座長 亀山久雄

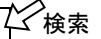
●回答提出先● 全国川ごみネットワーク

郵送: 〒132-0033 東京都江戸川区東小松川 3-35-13-204

Eメール: kawa53@kawagomi.jp Fax: 03-3654-7256

●質問・問合せ先● 担当: 伊藤 kawa53@kawagomi.jp Tel: 080-5006-7307

●PCから直接回答

河川ごみアンケート 

●スマホから



==== 河川ごみ実態把握アンケート ====

★河川だけでなく、海岸、湖沼などのごみも対象となります。
河川⇒海岸・湖沼 と読み替えてご回答お願いいたします。

ごみの回収活動について

Q1. 主に活動されている河川についてお知らせください。

1-1) 河川名

川

水系

1-2) 自治体

<input type="text"/>	都道府県	<input type="text"/>
----------------------	------	----------------------

市区町村

Q2. 活動する河川で、ごみ拾いをしていますか? (a)している (b)していない

(していない場合は⇒Q8.へ)

Q3. ごみ拾いは年間何回ぐらい行っていますか?

 回

Q4. 1回当たりどのくらいの範囲でごみを拾っていますか(川沿いの長さ)

 m

Q5. 主にどのような人たちがごみ拾いに参加しますか(該当すべてに○印を)

(a)団体会員とその家族・知人 (b)近隣の住民 (c)近隣の子ども関連団体(小中学校・ボーイスカウトなど)

(d)自治体職員 (e)他の市民団体 (f)企業からの参加 (g)その他 []

Q6. 回収したごみの量について調べていますか(調べているものすべてに○印を)

(a)袋数 (b)主なごみの個数 (c)重量 (d)運搬量(搬出トラック台数など)

(e)その他 []

(f)特に調べていない

●調べている方は、1回の活動当たりどのくらいの量ですか?(別紙添付でも構いません)

Q7. 川のごみ拾い活動に企業からの協力があれば、企業名と、その協力内容(参加/資金援助/物資協賛/告知・PR/その他など)を具体的にお教えください [例:○△信用金庫が、参加者にタオルを提供]。

企業名は複数あれば全てお知らせください。(別紙添付でも構いません)

(裏へつづく)

ごみの課題について

Q8. 活動されている河川で、ごみが気になりますか？

- (a) とても気になる (b) 多少気になる (c) あまり気にならない (d) 気にならない (e) 関心ない

Q9. どのようなごみが特に多いですか？(該当すべてに○印を)

- (a) たばこ吸い殻 (b) ペットボトル (c) 缶・びん (d) レジ袋 (e) 食品容器包装類 (f) 花火等レジャー関連
(g) 流木・枯れ草などの自然物 (h) その他[] (i) 特に無い

●特に気になるごみは何でしょう。なぜ？ また、どのような場所のごみが気になりますか？

Q10. その川で、ごみが散乱している主な原因は何と考えられていますか(該当すべてに○印を)

- (a) 河川利用者のポイ捨て (b) 業者の不法投棄 (c) 沿川の道路・農地等から (d) 上流・支流から
(e) その他[] (f) わからない

Q11. 活動されている河川では、ごみがあるとどのような問題となっていますか(該当すべてに○を)

- (a) 美観を損ねる (b) 生物への影響 (c) 利用者に危険 (d) さらにごみが増えてしまう
(e) その他[] (f) 特に問題と感じていない

●河川のごみの問題を詳しくお教えてください(どのようなことが問題となっているのでしょうか)

Q12. 5～10年前と比べて、川のごみは増えているか減っているかどのように感じますか？(いずれかに○印を)

- (a) 増えている (b) 減っている (c) 変わらない (d) わからない

ごみの対策について

Q13. ごみを拾うこと以外で、川のごみが減るように活動されていることがあれば教えてください。(該当すべてに○印を)

- (a) 柵その他で、川に入り込む前に回収 (b) 子どもたちへの環境教育 (c) 大人も含めた環境教育・啓発
(d) 自治体との連携した対策活動 (e) 民間企業等との連携した対策活動
(f) その他[] (g) 特にない(拾うことで対策)

●対策のための活動内容を具体的に教えてください。

===== **基本情報** =====

Q14. 団体についてお知らせください

・団体名:

・河川協力団体に登録していますか？ (a) はい (b) いいえ (c) 申請中 (d) わからない

Q15. 回答者についてお知らせください

・回答者氏名: 役職:

・連絡先: Eメール: tel:

ご回答いただいた個人情報は、本アンケートの結果報告、当団体からの質問・情報提供以外には使用いたしません。



**河川
基金**

公益財団法人河川財団による
河川基金の助成を受けています。

ありがとうございました